

今回、島津良子氏からのご案内で初めて「薬害アーカイブズの基盤研究」のプロジェクトが進められていることを知り、オンラインでの開催であったことから参加させていただきました。

私の所属する岡山県立記録資料館は、岡山県立の公文書館として 2005 年 9 月に開館しました。岡山県庁及び県機関等の公文書だけでなく、県にとって重要な古文書（私文書）や写真、記念品などの記録資料を幅広く収集保存し、一般の利用に供しています。私が主に担当しているのは公文書なので、目録作成の際に薬害に関して必要なキーワード登録や保存資料の選別の参考にしたいと思い報告をお聞きしました。

当館が作成する公文書目録は、引継いだ年度毎に課・室・機関名別に簿冊 1 点ずつに付番し資料群を作ります。そして、個々の簿冊標題と作成年度をデータベースに登録し、公開までに利用者が検索時にヒットしやすいキーワードを文書から抽出して内容登録します。件名目録を作成し件名内容を登録すれば検索しやすくなるのですが、現状では簿冊情報を充実させた上での公開に注力しています。したがって、当館の目録情報から薬害に関して検索するとすれば、保健福祉関係の課名、例えば「医薬安全課」や「保健所」などで検索すると関連文書が見つかり、さらに「薬」「診療」「医療」などの単語を付加すれば絞り込めるでしょう。ただ、公文書の場合は同じような標題を踏襲し、内容も似たものが多いことから検索するキーワードが少ないとヒットする資料数は膨大になります。当館だけでも公文書は約 7 万点、古文書（私文書）等を含めると約 30 万点所蔵しており、検索した資料を利用するためには膨大な時間と労力が必要になります。

公文書の簿冊には、島津氏が資料分類としてあげた 9 分類のうち、個人や団体からの陳情・要望などが上がってくれば①個人資料、②医療関係資料、③患者・支援団体資料が綴られるでしょう。裁判となれば、関係部署で④弁護団資料、⑤裁判資料を関係者から可能な限り取り寄せ、企業からの聞き取りも⑥企業資料をもとに行い、県の報道発表だけでなく関連するあらゆる媒体の⑧報道資料を収集することから、⑨その他を含めるとすべての分類資料が⑦公文書に含まれる可能性があります。

薬害に関係する資料を扱う類縁機関では、島津氏の資料分類に従って分類する有用性は可能との意見もありました。確かに、公文書を 9 分類で登録することは困難です。しかしながら、簿冊情報を作成する際にこの分類を使った内容説明をすることは可能ではないか。つまり簿冊情報や件名の内容備考に 9 分類の単語を入れて目録作成を行えば、利用者が目的の資料に辿り着きやすくなるのではないかと感じました。これらの単語を使用することは、特段の習熟した知識や経験は必要ないと考えられ、それぞれの組織によって資料

の登録・管理の方法は違っても、ある程度標準化された検索しやすい目録になるのではないかと期待できますし、さらに専門的知見から重要と思われるキーワードの提言が加わると、組織間の横断検索も含めて一層有効に利活用できると考えられます。

ところで、県庁と県の出先機関から引継ぐ公文書は、簿冊名（事案名）が似通っていれば同じ文書や資料が綴られていることが多くありますが、完全に同じものではありません。例えば県庁からの調査依頼を受けた出先機関が調査結果を県庁に報告した場合、出先機関が調査記録をそのまま報告することもあれば要約して報告する場合があります。要約した場合は調査記録の個票は出先にしか残らず、同じ文書でも出先機関の数だけ資料が存在するため、地域の現状や調査の詳細な内容は知ることができません。つまり、一括りにされる公文書でさえ、県庁と地域行政を担う出先機関では同じ事案に関する記録内容の密度に差異があります。

当館でいう古文書（私文書）は公文書を除くすべての地域資料で、資料所蔵者や地域で保存できなくなった資料を収集しています。基本的には資料の出所又は内容の地域（基礎自治体）名と家や個人・団体名で文書群名を付して、それぞれの文書群情報を付加しているため、地域や関係団体名で資料検索するようになります。前述したように、公文書でもある事案について詳細な記録を保存するためには出先機関作成文書も必要です。公文書は公的目録で選別して編冊されていますし、島津氏の資料分類にあたる資料の大半が綴られていたとしても、それぞれの資料作成者が作成した資料のすべてではないと考えておくべきでしょう。そのため、きちんと後世に継承していくためには、作成者である個人や団体などの目録で残された地域資料は不可欠であり、それらも含めたすべての資料を相互に比較検証することが重要です。

薬害に関するアーカイブズは、利用する人や利用される時代によってさまざまな視点で活用されると思います。自治体、個人、企業や関係団体などが保存するアーカイブズを有効活用し、正しく検証可能にするための取り組みとして、今回の報告での資料分類と登録方法の報告は興味深いものでした。薬害資料に対する大分類の視点は、多様な内容を含む公文書目録を作成する際に大いに参考にさせていただき、横断検索を含めてアーカイブズをより利用しやすくなるように、登録内容を工夫していきたいと思います。